

二、情報出版企業として

⑩「コンピュータ化(4)「桐」から「アクセス」へ」
「ネットワークの構築へ向けて」

平成三年七月から「表面」の顧客データの入力を始めた。当初、手書き台帳の入力を外注するつもりで隣のビルに入居していたトータルメディア社に相談したが、値段の折り合いがつかず自社開発に切り替えた。その時同社に強く薦められたデータベース(DB)ソフトが管理工学研究所製のDBソフト(桐)だった。DBソフト導入のメリットとしては、

- ① 正確さ
- ② 速さ
- ③ 拡張性

等が挙げられる。正確なデータ管理はパソコンを防止し、スピーディーな入力作業は営業部員への迅速な台帳回覧と名簿供給を可能にした。又、拡張性は売上処理等の事務の省力化とその後のネットワーク化につながった。

当時のオフィス情報化の状況は、NECのDOSパソコンPC-88の独壇場であった。88で動くDBソフトは事実上(α・β)と(桐)が独占していたが、後発の(桐)は徹底的に使い易さを追求した製品で、他の多くのユーザーと同様、当時のNTSのニーズにびたりと応えるソフトであった。使用勝手がよくなったため、比較的早くパソコン導入の効果が現れた。すなわち、当時の出版点数の増加に伴う売上拡大に非常に威力を発揮したのである。(桐)は約六年間稼働し当社の情報基盤整備に貢献したが、平成十年から少しずつ「アクセス

ス」にシステムを変更し始め昨年ほど変更を終了した。(アクセス)に乗り換えた理由として、技術的な(桐)の問題点、すなわち、

- ① OS依存性
- ② 会社の成長への対応能力の限界
- ③ Y2K(二〇〇〇年問題)対応

等への対応が挙げられる。(桐)はソフトの使用環境であるOS(MS-DOS)自体の処理能力に限界があり、つまり、年を追って増加するデータ(名簿)の量や処理速度に次第に対応できなくなっていた他、ネットワークの方に対応を迫られつつあった二〇〇〇年問題への不安があったための変更であった。また、業務的な理由としては、(桐)によるシステム構築は実務担当者(〇〇)や総務(〇〇)が業務を兼任していたが、規模が増大するシステム対応に限界が生じていた。そこで情報開発室を設置し専任者(〇〇)をおくと同時に、これらの問題を解決する方策として「アクセス」への乗り換えも同時に行ったのである。

ソフトの乗り換えにこの時期を選ぶ必然性はもう一つあった。「表面」営業から本一冊毎に(バーコードシール)を添付し始めたが、六年の歳月を経て流通する書籍のすべてに(シール)が添付される状況となり、(バーコードシステム)始動の環境が整ったのである。平成九年十一月の「現代おさかな事典」は、そうした諸々の

状況が重なり合う時期の中での発刊であった。しかも、NTS初の自然科学系書籍であったため相乗効果がきかず、単品での営業が新しい試みにはかえって好都合であった。こうした事情が重なり合い(アクセス)への乗り換えは他に選択の余地がなかったともいえるのである。

「おさかな」からスタートした(アクセス)だったが、この二年半の間に段階を追って会社のシステムは発展してきている。そのプロセスを総括すると第一段階は「おさかな」での始動、第二段階は(バーコード)システムによる他の書籍の発送・返本管理への応用、第三段階は顧客情報データベースの(桐)からの全面移行、第四段階が今後の将来展開である。

- ① 佐川急便のシステムとのリンク
- ② 売上から請求までの事務処理の一体化
- ③ データベースと営業データのより完璧をめざしての整理・統合

等を視野に入れていく。こうしたテーマを一つ一つ解決する中で、本号記事で取り上げた、「安い本」を相乗させるネット時代の試読戦略の行く末も明らかになるだろう。

掲示板

社内清掃について

次の日程で、本社事務所内の床掃除を行いますので、宜しくお願い致します。当日休日出勤の予定がある場合は作業に支障がありますので、必ず総務部に連絡して下さい。

五月二十八日(日)

今月の人事

- 四月一日付発令
- 編集企画部編集二課課長
- 営業部営業一課課長
- 営業部営業管理課課長(兼)
- 市川営業所副所長
- エヌエスハイテック
- 嘱託
- 四月一日付入社
- 編集企画部
- 四月十日付入社
- 編集企画部
- 四月二十四日付入社
- 営業部
- 営業部

編集後記

▼あつという間に過ぎたGW。頭はすっかり休みボケ。毎年何かしようと思いついたのは強いのに難しい。(サンデー武田)「おじゃるまる」がリニューアル。この番組がなかったら朝は起きられないかも。おじゃる様さま。(ポンタ加藤)▼クロツグミのさえずりをCDで聴いた。トレイニングは終り。さあ、本当の鳴き声を探しに山へ。(ジャンプ西井)▼NTSにも薄利多売の時代到来！(ラフリー伊勢)

NTSニュース二〇〇〇年四月号(通巻二十二号)
二〇〇〇年四月二十五日発行